

## あとがき

天野川は、大学在勤中には卒業研究の調査フィールドであった。大学に近く、上流部が山地、中流部は農地、下流部が市街地の流域面積約51km<sup>2</sup>の典型的な小規模流域河川で、平水時には流量が少なく、流水中に立入って流水断面や流速を計測できた。下流部は市街地河川ゆえ水質変化が激しく、3日に1度の高頻度負荷量調査を10年ほど継続したなじみの川である。近年の水質改善とともに、大阪府の天野川水辺プラザ整備計画の進行によって親水施設が整い、魚影が増えつつある。上・中流部の山野では、七夕伝説や天孫降臨の地としての実感ができる。とくに、京阪電車私市駅からの、大阪市立大学植物園・星の里いわふねから大吊り橋の大坂府民の森ほしだ園地へのアクセスが整備された。私市駅から、淀川を見渡せる高所で、東方の獅子窟寺を経て、大阪府民の森くろんど園地への道は、また訪れてみたい所である。この淀川支川の天野川を含めて、琵琶湖の天野川、霞ヶ浦の天ノ川の3つを実際に水質調査をしたのは何とも不思議な巡り合わせである。

「生駒から あまの川経て 淀川へ 流れ行く先 ちぬの海なり」

(公社) 日本水環境学会関西支部川部会／海老瀬潜一

## 参考文献

- ・国土交通省ホームページ [http://www.mlit.go.jp/event/kawanohi/kawanohi\\_.html](http://www.mlit.go.jp/event/kawanohi/kawanohi_.html)
- ・交野市ホームページ <http://www.city.katano.osaka.jp/>
- ・枚方市ホームページ <http://www.city.hirakata.osaka.jp/soshiki/bunkazai/>
- ・古澤 裕(1997) 大阪府の河川と河川行政,水,66-70.
- ・ふれあい近畿(2007) ホリデーハイク「七夕伝説の地、交野」,06月,12-15.

## 既刊の紹介

- ・源流を行く 編 『名張川』(2013)『木津川上流』(2013)『高時川・余呉湖』(2014)  
『桂川・由良川源流』(2014)
- ・おうみの川 編 『赤野井湾と流入河川』(2013)
- ・みやびな川 編 『白川』(2010)『鴨川・明神川』(2012)『琵琶湖疏水』(2013)『京の川』(2014)
- ・歴史とロマンの川 編 『瀬田川・宇治川』(2010)『保津川・桂川』(2011)『芥川』(2011)『猪名川』(2013)
- ・なにわの川・庶民の川 編 『東横堀川・道頓堀川』(2011)『恩智川・生駒の川』(2012)『中河内の川』(2013)  
『大川と大阪市内河川』(2013)

(公財)琵琶湖・淀川水質保全機構  
<企画編集>(公社)日本水環境学会関西支部川部会  
(一社)近畿建設協会

## 琵琶湖・淀川 里の川をめぐる

～ちょっと大人の散策ブック～ <歴史とロマンの川編>

### 天野川 (Amanogawa)

[発行] 平成27年2月

[発行者] 公益財団法人 琵琶湖・淀川水質保全機構

〒540-0008 大阪市中央区大手前1-2-15 (大手前センタービル4F)

TEL. 06(6920)3035 FAX. 06(6920)3036

<ホームページ> <http://www.byzq.or.jp/>

\* 散策ブックはホームページ上で閲覧することができます\*

(公財)琵琶湖・淀川水質保全機構では、寄付へのご協力・賛助会員のご入会をお願いしております。戴いた会費・寄付金は、当機構を通じ琵琶湖・淀川流域の水質保全に活かされます。詳しくは、ホームページをご覧ください。

©BYQ, 2015 Printed in Japan

# 琵琶湖・淀川 里の川をめぐる ～ちょっと大人の散策ブック～

## 歴史とロマンの川 編

# 天野川

(Amanogawa)

(公財)琵琶湖・淀川水質保全機構  
(公社)日本水環境学会関西支部川部会  
(一社)近畿建設協会



## 「琵琶湖・淀川流域散策ブック」のねらい

(公財)琵琶湖・淀川水質保全機構と(公社)日本水環境学会関西支部川部会、(一社)近畿建設協会は、大都市圏の川を水質という側面だけではなく総合的に把握し、その機能を再評価するために川部会が2001年より行ってきた活動の成果を基礎に、「琵琶湖・淀川流域散策ブック」をまとめることになった。

この散策ブックは、琵琶湖・淀川流域の河川を散策する時に気軽に携帯できるガイドブックを意図して作られており、対象河川の概要はもとより、流域の見どころ、名水や滝、水質や生物、その川にまつわる興味深い話などが、豊富な写真や地図を用いて解説されている。

散策ブック全体は、「源流を行く」、「おうみの川」、「みやびな川」、「歴史とロマンの川」、「なにわの川・庶民の川」の5編で構成され、それぞれ5、6リーフレットからなる。本リーフレットでは、歴史とロマンの川編として、淀川の支川で枚方市内および交野市内を縦断する天野川をとりあげた。

本ブックシリーズが、琵琶湖・淀川流域の河川に親しみを感じ、流域を散策するための一助になることを願っている。

### 目次

ねらい・目次	
天野川の概要	02
生駒の源流田原から磐船神社へ	03
大阪府民の森	06
「星の里いわふね」と大阪市立大学付属植物園	07
コラム1 あまのかわ	07
コラム2 七夕伝説と七夕まつり	09
コラム3 川の日とカッパのキャラクター	11
京街道の枚方宿へ	13
コラム4 天野川の水質	14

### CONTENTS

(表紙写真／天野川・星の里いわふね付近)

## 1 天野川の概要

天野川は、奈良県生駒市南田原町と大阪府四條畷市上田原町を源流域とし、磐船街道(国道168号)を西北に流れて、大阪府の交野市・枚方市の市街地を流下して淀川左岸に流入する。生駒市南田原の住吉神社の泉が1つの水源で、もう1つの水源は府民の森「緑の文化園」や清滝峠にあると言われ、河川長約15km、流域面積約51km<sup>2</sup>で、大阪府が管理する一級河川である。

全国に6つほどある天空の川「あまのかわ」に由来する名の川の1つである。ちなみに、いろは街道とも読める168号は、枚方市の国道1号から天野川沿いを縫い、分水嶺南側の大和川支川の生駒川沿いを下って、奈良県五條市を経て紀伊半島

の和歌山県新宮市の国道42号まで続いている。

天野川流域では古くから稲作が行われ、甘野の地を流れる甘野川と称されていたらしい。また、砂地の多い川床からも天の川に似せられた。桓武天皇が延暦4(785)年に、交野市柏原の野に星祭りの土壇「郊祀壇」を築かれて、天帝を祀る儀式が行われた。さらに、交野が原には機女たねばたづめがいて、機女を祀る養蚕・機織り技術の渡来人秦氏の秦者の社(機物神社)があり、七夕伝説と結びついたと言われている。また、交野には北極星と妙見菩薩信仰が関係する星田妙見宮があり、中宮の地名も残るように、空の星との関係が深い地域を流れる。

この天野川に架かる橋の名前かささぎも、七夕伝説にちなんで、鵲橋、天津橋あいあい、逢合橋、羽衣橋などの名がつけられている。左右両岸の流域には、天野が原、星の森、星ヶ丘、星田の地名があり、牛石(牽牛石)もある。



天野川流域図



## 2 生駒の源流田原から磐船神社へ

天野川源流域となる生駒市と四条畷市の田原地区は生駒山系の高原部にあり、分水嶺を北側に流れる天野川(淀川水系)と南側に流れる富雄川・生駒川(大和川水系)の源流域が交錯する。

田原地区の高地部には新興住宅地が、低地部には水田が広がるが、その中を流れる天野川は、一転急傾斜の山地狭窄部を**磐船街道**の国道168号とともに下る急流部の**磐船峡**がある。

この水源部の田原地区西部には、大阪府と奈良県を結ぶ最も北側の国道163号の清滝トンネルがあり、行基道と言われる清滝峠がある。かつて、この近辺の生駒山の湧水がミネラルウォーターとして販売されていた時もある。

天野川左岸部の飯森山の山裾には、桜の美しい法元寺がある。少し下って磐船峡に入る手前に羽衣橋があり、ここから北側は交野市となる。



源流の住吉神社付近と道標



源流の住吉神社付近と道標



源流の田原台付近



田原台の仙女橋

天野川上流部



天野川上流部

法元寺と天野川上流



磐船神社

A painting of a garden scene. In the foreground, a paved path leads towards a garden area. To the left, there's a weathered wooden fence and some trees. In the center, a person is sitting at a small table covered with a white cloth, surrounded by potted plants. The background shows more trees and foliage.

磐船神社の巨岩



胎内めぐり入口

この狭窄部を少し下った所に、天野川を跨いで横たわる舟の形をした巨岩(高さ約12m、長さ約12m)を御神体とする**磐船神社**がある。にぎはやひのみこと 饗速日命が天の磐船に乗って降臨されたという伝承の神社である。古くは交野で勢力があった肩野物部の氏神で、中世以降は神仏習合の影響が見られる。巨岩がごろごろしている境内はあまり広くはないが、地表下の狭い岩の下をくぐり抜ける「**胎内めぐり**」が体験できる。磐船神社は天野川と交錯する地形のため、天野川の氾濫の影響を度々受けていた。

かつて磐船神社付近は狭い山峠で、カーブの急な磐船街道(一部一車線で急カーブの坂道)に面して、大型車の離合が困難な渋滞の名所でもあった。1997(平成9)年に天野川と磐船街道の両者がトンネル化されたバイパス道路が竣工した。

北側の山中を天野川と国道168号が抜けて行く形に納まって、すっきり整理されて、街道沿いに駐車場・トイレ付き休憩所も設置され、環境は一新された。天野川は、トンネル水路となって交野市側出口で空に向かって飛び出しが、天空の川とはなれず、滝のように落下して、減勢池を経て旧河道へと戻っていく。その後、左右に大きな蛇行を繰り返して流下する。

沈砂池や減勢工付きの天野川の立派なトンネル型の放水路を見て、新しい国道を少し下る。途中



天野川トンネル入口



天野川トンネル出口

の西側の旧道から山道を経て天野川に辿り着けば、そこは渓谷となって蛇行する滝のような急流部となり、「鮎返しの滝」と呼ばれている。

生駒山地の北端部で、比較的標高の低い山地・丘陵地には大阪府民の森(ほしだ園地、くろんど園地、緑の文化園)やゴルフ場があるほか、京阪奈丘陵には関西文化学術研究都市が広がっている。**くろんど池**の西側で天野川の東側の山中に**獅子窟寺**がある。

獅子窟寺は役行者が開山し、聖武天皇の勅命により金剛般若窟寺として創建された。衰退や再興、さらに焼き討ちからの復興を経て、現在は真言宗の寺で、国宝指定の木造薬師如来座像がある。この境内にも獅子が吠える形の獅子窟岩をはじめとして、巨岩がゴロゴロ存在する。その長くて急坂の参道はジョギングや身近なハイキング等での鍛錬の場でもある。

少し下ると**松宝寺**と**松宝池**がある。松宝寺は江戸時代に融通念佛宗の寺として再建されたが、かつては後背の山上にある獅子窟寺の12あった塔頭の1つであったと伝えられている。さらに少し下った東側に**天田神社**がある。甘野の地が天野、甘野川が天野川、さらに甘田が天田になったと伝えられている。肩野物部氏が甘田を祀って建てた甘田の社が天田神社である。平安時代に饒速日命が海の神であり、当時の住吉信仰から住吉神へと替つたらしい。



天田神社



松宝寺と桜



獅子窟寺の巨岩への道



磐船隧道と天野川トンネル



樹間からみる鮎返しの滝



獅子窟寺



府民の森ほしだ園地



木製の砂防ダム



木製の減勢池付砂防ダム



クライミングウォール



石積み砂防ダム



星のブランコ



やまびこ広場

### 3 大阪府民の森

生駒山系は金剛生駒紀泉国定公園に含まれ、その周縁に**大阪府民の森**として、諸施設が整備された。すなわち、この府民の森は、1997(平成9)年の第52回国民体育大会(略称:大阪国体(なみはや国体))の山岳競技会場およびその周辺整備と、大阪府政100周年を記念して整備された。遊歩道を横切る渓流には木製の橋や柵のほか、土砂流出防止の木製の堰のような自然生態系への調和に配慮が見られる。

遊歩道には個人の体力で選べる緩斜面や急斜面のコースがあり、途中のレストハウス(**ビトンの小屋**)、**クライミングウォール**(人工の登はん壁)を経て、**府民の森ほしだ園地**へつながる。このクライミングウォールは、近年のスポーツクライミングのブームともマッチして非常に人気のあるスポットで、命綱をつけて突起したコブを乗り越えて登る様子は、見物客をも引きつけている。

さらに圧巻は、このほしだ園地のシンボルとも言うべき、1997(平成9)年竣工で、国内最大級の吊り橋**星のブランコ**(全長280m、地上50m)を渡ることである。さらに、登って行くと、途中に**やまびこ広場**があり、昼食や休憩に利用されている。ここ

からは磐船神社を経て同じ府民の森のくろんど園地を経て獅子窟寺や、JR学研都市線の星田駅へアクセスできる。また、この府民の森入り口の天野川左岸側の遊歩道を下ると、「星の里いわふね」へ直接行ける。



展望デッキからの眺望



星のブランコ



「星の里いわふね」入口



天野川左岸の水辺散策路



天野川の砂場

## コラム① あまのかわ

同名の天野川は、淀川水系では、この大阪府北河内の天野川と滋賀県湖東の天野川の2つが存在する。天空の銀河の“天の川”は、漢語では天漢、銀漢、雲漢、河漢、銀河、英語ではMilky Way、Galaxyと称される。大きな国語辞典には、天野川あるいは天之河として皇室ゆかりの禁野や平安朝の歌人に詠まれた地として交野・枚方両市を流れる天野川が記載され、禁野付近が天の河原とされる。琵琶湖の湖東に流入する天野川(流域面積111km<sup>2</sup>)は、天然記念物のゲンジボタルの鑑賞ができ、ホタル祭も有名である。

全国的には天の川はたくさん実在して、北海道の桧山地域を流れて日本海に注ぐ二級河川の天野川(同276km<sup>2</sup>)が最も流域規模が大きい。

表 全国のあまの川(古澤を改編)

道府県	水系等	河川名	流域面積
北海道	天野川	天野川	276 km <sup>2</sup>
茨城県	霞ヶ浦	天ノ川	53 km <sup>2</sup>
埼玉県	荒川	天の川	—
滋賀県	琵琶湖	天野川	111 km <sup>2</sup>
京都府	由良川	天野川	—
大阪府等	淀川	天野川	51 km <sup>2</sup>

## 4 「星の里いわふね」と大阪市立大学付属植物園

国道168号の西側で天野川の八幡橋を渡った左岸側に、「星の里いわふね」(交野市立いわふね自然の森スポーツ・文化センター)がある。ここには、プラネタリウム、自然植物園、体育室、炭焼き窯、ロッジ、キャンプ場があり、川辺にはファイアーサークルやバーベキュー場も設けられている。天野川の左岸側では、川へ直接のアクセスができ、幼児でも砂地の浅瀬の川に入って水遊びができるように整備されている。

私市小学校横を流れる小支川の尺治川は、流砂が多く、明治時代にお抱え外人土木技術者で、オランダ人技師デレーク指導による石積み堰堤の100年ダム(尺治川ダム)を見ることが出来る。この近代土木遺産のすぐ下流側の日之出橋を渡った左岸側には大阪市立大学理学部付属植物園(25.6ha)がある。東アジア、北アメリカ、ユ



ラシア、オーストラリア別の外国産樹木見本園や、花木園、タケ・ササ園、亜熱帯・熱帯・乾燥地の植物や水生植物が見られる。とくに、入り口近くのメタセコイアやセコイアの林立はみもので、後背地の生駒山地とも連なり、森林浴に向いている。

さらに天野川の右岸部を下って東側に少し行けば、生駒山地の北側アクセスの拠点とも言うべき京阪電鉄交野線「私市」駅がある。戦前には枚方から私市を抜けて奈良市富雄方面への電車の延伸計画もあったそうである。

大阪市立大学理学部付属植物園と背中合わせの西側にあるのが、星田の妙見さんと親しまれる**星田妙見宮(小松神社)**である。ここへのアクセスは、JR学研都市線の**星田駅**から徒歩で30分ほどで行けるが、国道168号からは私市4丁目南西側の私市橋で天野川を渡って、妙見坂を登って行け

## コラム② 七夕伝説と七夕まつり

交野市史によれば、稻作の甘野の地と砂の多い天野川の河床や、織物の技術を持つ渡来人の秦氏の機物神社の存在などから、中国の織女星と牽牛星の七夕の伝説より天野川の名称が定着したものと考えられている。天の川の両岸の牽牛と織女が1年に1度出合う橋が逢合橋で、橋渡しをするカササギの名が、天野川に架かる橋の名称にもなっている。

交野市では、7月7日の機物神社の祭りに合わせて七夕まつりが毎年開催されている。天棚機比売大神(あまたなばたひめのおおかみ)などを祀る機物神社を主として、1979(昭和54)年に復活した七夕まつりは前日6日の宵宮から夜店などが出て賑わい、御神輿も練り出し、色とりどりの願いごとの



短冊で飾られた竹箇は夜間に天野川に流される。

天の川七夕星まつりの会などが中心となって、北極星信仰の星田妙見宮はもとより、星の里いわふねは綱を張って天野川の両岸を結び、くす玉を飾ったり、灯籠いかだを浮かべたりして、星のまち交野の一大イベントを構成している。



機物神社の七夕まつり



大阪市立大学付属植物園



植物園内



植物園内の見本園



京阪電車私市駅



交野代官所



代官所の塀と屋敷



機物神社参道



機物神社

ば辿りつける。急坂の下にあるのが星田神社で住吉神を祀っている。

この社を抜けて石段を登り詰めると、2つの巨石を磐座とする星田妙見宮に至る。もっとも、車で妙見台の住宅街を山上部近くに上がって、狭いハイキング道のような参拝路をいろいろな末社巡りしながら下って本宮へ達することができる。

星田神社の境外にある摂社でもあるが、妙見宮はつとに有名であり、本殿前からの枚方・高槻方面の眺望も優れている。弘法大師が交野に来たときに、天から七曜星が降り落ちた3ヶ所の1つがこの地と伝えられる。生駒山系でも数少なくなった磐座信仰の靈場で、星祭り、七夕祭や星降り祭が催される。

右岸側の**交野市私部**の古くて狭い街並みの中には、国の重要文化財の指定を受けた**長屋門**と白壁の塀の代官屋敷跡「**交野代官所(北野家住宅)**」がある。大きな主家と白壁の土蔵(乾蔵や北蔵)のある堂々とした屋敷である。

さらに、およそ1.5km北東側の倉治小学校の東側には織女星が祀られる**機物神社**があり、交野市の七夕祭りの拠点でもある。大きな石灯籠のある100mほどの参道は、公園状態で子供たちの遊び場になっている。

近年、夏季の最高気温の高さでも注目される**北河内**の枚方地域での年間降水量の平年値は1,343mmと少ないため、中流域には多くの灌漑用溜

池が見られるのも天野川流域の特徴である。かつての水田部も、現在は、工業団地や住宅地に変容している。右岸側の支川からと川の周辺にはいくつかの工業団地や、約180万m<sup>3</sup>/日と国内でも有数の給水能力を有する村野浄水場が存在する。

村野浄水場は、1970年に大阪府吹田市を中心として開催された万国博覧会の会場に上水を供給し、大阪府が府下市町村へ上水の卸売りをしていた。現在は、大阪広域水道企業団として、淀川の磯島から取水し、村野で浄水して、北は能勢町か



禁野車塚古墳



百済寺跡遺跡公園



百済寺跡



村野浄水場



百濟王神社



中山観音寺跡



牽牛と牛の像



牛石



山田神社



天野川の藤田川合流地点

### コラム③ 川の日とカッパのキャラクター

旧河川法および砂防法が制定され、河川制度が確立して100周年の1996(平成8)年に、国土交通省は、7月7日の七夕の日を天の川のイメージとし、7月が河川愛護月間であることと水に親しみやすい季節であることを考慮して、「川の日」を制定した。

地域住民と川との関係や川について認識を深め、地域の良好な環境作りに住民と自治体が一緒になって取り組む活動を行うことを趣旨としている。

7月の第3月曜日は国民の祝日「海の日」である。2016年から8月10日を国民の休日「山の日」とすることに決まったが、天野川の源流域で、海なし県の奈良県では、以前から、この川の日を山の日・川の日とすることを条例で制定している。

国土交通省は下図のように川の日を示すカッパをキャラクターとして採用している。



イラスト:(公社)日本河川協会提供

ら南は岬町まで府下42市町村の約80%の水道水として配水している。

天野川下流部右岸側で国道1号の北側には百濟寺跡や禁野車塚古墳の歴史的遺跡が存在する。百濟寺は、渡来人とともに日本に渡って来た仏寺遺跡で、大阪府営の遺跡公園として整備され、広い遺跡は市民の憩いの場や近くの子供たちの遊び場になっている。遺跡公園の隅には百濟王神社がある。

禁野車塚古墳は、近年卑弥呼の墳墓との説で有名な飛鳥の箸塚古墳と同型、同時代の墳墓であり、女王卑弥呼の近親者が埋葬されてるのではないかと注目されている。

国道168号を少し下れば、左岸側から支川の藤田川が合流する。藤田川上流域の丘陵地には香里ヶ丘の大住宅団地が広がる。香里ヶ丘団地中央部の新香里バス停に近い南方に、牽牛星を祀ったといわれる中山観音寺跡の観音山公園があり、その東北端には牛石(牽牛石)がある。さらに、その南側に西の成田山として知られる不動尊があり、交通安全のお札が有名である。天野川下流の左岸側の京阪電車本線沿いにはひらかたパークの遊園地があり、休日には子供たちの歓声に包まれる。夏には水泳プール、秋に菊人形展が催されている。

藤田川下流の左岸側で宮ノ前橋バス停や宮之下町の近くに素盞鳴命と稻田姫を祀る山田神社がある。肩野(片埜とも書く)の地の小高い山之上の神地を山之上神社と称していたが、鎌倉時代に近くの旧田宮村の田宮神社の祭神を合祀して、両社の頭文字から山田神社となった。合併後の名づけ方として、このようなハイブリッドな名づけを古くからしていたらしい。

## 5

## 京街道の枚方宿へ

市街化された天野川下流部の国道1号の**天野川新橋**右岸側には**禁野車塚古墳**や**百濟寺跡**などの古い遺跡が残り、左岸側には鍵屋のように宿場町としての近世の遺構が残されている。この天野川左岸部で淀川に近い位置に京阪電鉄枚方市駅があり、ここから天野川の右岸側沿いに、交野市の私市駅までつながる京阪電鉄支線の**交野線**が走る。下流部左岸側を走る府道20号は、車の通行が多いが、桜並木の美しい川辺の道である。

江戸時代の浮世絵に残る天野川下流部は川幅がかなり広かったようである。現在は天井川化して高い堤防に守られて、川幅はさほど広くない。合流後の淀川下流側の左岸部堤防沿いに、淀川の河川整備を業務とする国土交通省の**淀川河川事務所**がある。それに接して府道13号京都守口線側には**淀川資料館**があり、淀川の歴史や治水対策の展示が見られる。また、かつての寝屋川や大和川の流路変遷の歴史も学べるほか、淀川の水生生物の資料展示もある。

天野川の淀川左岸側への流入地点で西側の大坂寄りが、淀川の舟運で有名な**京街道枚方宿**である。この枚方宿の淀川左岸側の堤防上を走る府道13号の脇には、**三ツ矢の郵便屋の渡しの碑**がある。かつては、淀川を渡る橋がなく、この三ツ矢に渡しがあった。

東海道の延長部の**京街道**(四宿追加で)五十七次の56番目枚方宿跡を中心に枚方市街地が展開してきた。現在は天野川合流後の数百m下流側の淀川左岸部で、淀川堤防と府道の隣に旧街道が通り、枚方宿跡の街並み整備で保全されている。その中でも、淀川下りの**三十石船・くらわん**



天野川下流部



天野川下流部の府道20号と桜並木



鶴橋



鶴橋と魚道



淀川合流直前の天野川



天野川の説明版



三ツ矢の郵便屋の渡しの碑



鍵屋資料館入口



鍵屋全景



天野川上流の大蛇行

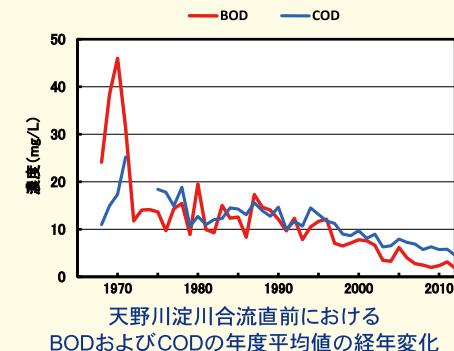
**か船**等で有名な旧船宿の「鍵屋」(町屋)は、現在**枚方市立「鍵屋」資料館**として公開されている。鍵屋は建物自体が歴史的建造物であり、2階の大広間の障子を開ければ、府道越しに淀川が望める。

### コラム④ 天野川の水質

京都と大阪を淀川左岸側で結ぶ京阪電車沿線では、枚方市は人口が40万人を超える規模の大きな都市である。人口約7万8千人の交野市は金剛生駒紀泉国定公園の一部を成す緑園都市である。この両市を縦貫して流下する天野川の流域は、大阪のベッドタウンとして人口増加を続けてきた。

とくに、左岸側支川藤田川上流域の香里ヶ丘団地開発の規模は大きかった。また、枚方市北東部で右岸側支川のから川や免除川流域には工業団地の造成等が行われた。これらによって都市規模が拡大し、1970年代頃から天野川の水質汚濁は最悪状況を呈した。しかし、1990年代頃から両市内の下水道普及率が80%を上回り、2000年頃から著しく水質改善が進んだ。

流域内の降水量は多くなく、溜池がたくさん存在する。したがって天野川の平水時の流量はかなり少ない。北隣りの穂谷川や船橋川では夏季に晴天が継続すると、下流部では伏流して河床から水が消えることもある。



天野川淀川合流直前におけるBODおよびCODの年度平均値の経年変化